



ぞうしょくしょう まめちしき 増殖礁豆知識



Q 1. 増殖礁って何？

- A. 増殖礁とは、魚の産卵場や小さい魚のかくれ場となる「魚の保育園」です。最近、日本の海では、海藻が枯れてしまう「磯焼け（いそやけ）」という現象が問題になっています。「磯焼け」から海を守るために、日本では、各地の海に増殖礁が設置されるようになりました。
- また、魚が集まる場所を造るための「人工魚礁（じんこうぎょしょう）」という「魚のマンション」もあります。



増殖礁に集まるメバルの稚魚

Q 2. 増殖礁を海に沈めるとどうなるの？

- A. 増殖礁は流れてきた海藻の種を受け止め、大きくなるまで育て、「藻場（もば）」という海藻が茂る場所を造ります。藻場は魚の産卵場となり、生まれた魚はそこをかくれ場とします。
- 魚以外にもイセエビのかくれ場、アワビやウニのえさ場など、さまざまな海の生物にとって大きな役目をはたします。また、「人工魚礁」に木材やパネルを取り付けて増殖礁にすることもあります。



増殖礁の表面
(フジツボやゴカイ)



増殖礁に住む小さなカニ

海に設置した後、増殖礁にはフジツボやゴカイ、カイメンなどの岩場でも見られる海の生物が付きまします。そのすき間には、魚が大好物の小さなエビやカニが入り込み、住み始めます。

このようにして、増殖礁は「魚の食卓」としての役目もはたすようになります。



ヤリイカの卵（らんろう）



アワビ

Q 3. 増殖礁は何でできているの？

- A. 例えば、貝がらとコンクリートを混ぜ固めてチョコクランチのようにしたものがああります。この素材は、表面がデコボコしているため海藻の種が引っかかりやすく、すき間がたくさんあるため、小さなエビやカニが住みやすい場所になります。また、貝がらは、すてるはずのものを有効利用しているので、環境にも優しい素材です。



ワカメ（2年後）



マコンプ（3年後）



ホンダワラの仲間（5年後）



クロメ（10年後）

